

ジャム販促 SNS連動

松山大と県信連 協働事業

研究成果4案 学生が報告

松山大の学生がインターネットを使った農産物加工品の販売方法を研究した成果報告会が31日、松山市道



オンラインで、インターネットでのジャムの販売戦略を発表する松山大の学生—31日午後、松山市道後樋又

後樋又の松山大樋又キャンパスであった。ジャムを使った菓子の手作りキットや購入者が一つの瓶に好きな味を組み合わせられるジャムなど、若者目線の4案を発表した。

農業分野の課題解決に向け、同大経営学部の方賀英明准教授のゼミと県信用農業協同組合連合会(県信連)が2019年に協働事業書を締結。県内産果実を使ったジャムなどを手掛ける「楽農研究所(内子町)と連携し、ゼミの3年生21人が4班に分かれ、販売促進に向けた調査、研究に取り組んだ。

31日はオンラインで成果

を発表。ある班は新型コロナウイルスの影響で家での時間が増えたことに着目し、「インスタ映え」する韓国マカロン「トウンカロン」をジャムを使って手作りするキットを考案した。会員制交流サイト(SNS)へ投稿した人に抽選でジャムを贈るキャンペーンをす

れば、宣伝効果が狙えるとPRした。

楽農研究所の菊地義一社長(44)は「ホームページを作成中で、発表を参考に自社の商品をアピールできれば、トウンカロンなどできるところからやってみよう」と意欲を示した。

(亀井咲希)